

自然保育と史的背景

東京学芸大学 芦田昇

自然保育の目的は未分化・無自覚な幼児の行動を妥当な場面で適当に誘導し、その健康な発達を助成し、創造性・社会性の豊かな自主的人格性の基礎形成を促進するものである。それは現在の自然な状態から自然的な方法によって保育するものであり、整備された環境で自然的な場面構成の下に、子どもに自由に健康な興味活動を展開させる誘導によって成就される。次にその史的背景を考察しよう。古代ギリシャのプラトンが国家の中で限られた統治階級の育成について強制をしない自由教育を説いている。

科学的実学主義を代表する大教授の著者コメニウスは人類の救済・社会の改善という立場から教育を考え、すべての人々が教育を受ける必要および教育は幼時期に開始されるべきことを力説した。彼は自然界の法則は人間をも支配しているから、学習活動の根底に横

たわる原理は自然法則の一致すべきであると考え、教育方法の原理として自然に従うことを主張した。彼はまた今日の成熟と学習の関係や準備の法則や発達は継続的および発展は内部からの事実を認め、ことばより先に事物をの主義で直接経験と感覚器官の訓練を重視し、強制を排し興味を重んじた。これらは自然保育に通じるものである。

啓蒙期のルソーほど自然を重視しすぎた誘導法を高く示した者はない。彼はエミールで教育者を自然・事物および人の三者とし、これらの教育を一致させるためには自然の教育の方へ他の二者を導いて行かねばならぬから、教育の目的は結局自然の目的と一致すると云う。もし自然が発達の可能性に基づく人間自然の性情であり、事物が環境の物的刺激で、人が刺激要因としての人と場面を支配する人の操作と見て、これら三位一体の活動を説くならば、それは自然保育に外ならないが、彼の考えは多少異っている。彼は真の学習は子どもが自ら実行するところに行われるから、真の教育は子どもを自己支配の状態におき、経験から直接学ばせるために、人に頼らず自然物に頼らせよと云う。この消極的教育は実は厳しい積極的な誘導教育である。彼は子どもを社会から引きはなして教育すると非難されるが、必要に応じてエミールを必要な限りの社会に連れこんでいる。そして初めは自然の法則に任せておくがよい。だが人間社会にあってはこの法則を超越する必要があるということをお忘れは

ならない」と云っている。彼は社会性を問題にはしていないが、個人的關係で自然保育が生命とする誘導法を徹底的に説いたのである。

ベスタロッチもまた注入と暗記による偏知教育を排し、人間諸能力の自然な調和的発達を主眼とする人間本性的自覚にまでの教育を主張し、自然の道に従う人道的理想を目的とする個性の解放を説き、民衆を対象とする初等教育を行い、愛を中心とする直視教育を示した。信頼に満ちた愛の環境と直観的経験は自然保育の重要な問題である。

近代のフリーベルほどに子どもを貴んだ人はない。彼は人間教育の中に万物を支配する永遠の法則が基礎をおく永遠の統一を神とし一切を生み一切の中に常住する神のものを万物の本質とし、人間の秘められた神性を純粹に完全に実現し自覚的意識的に發展するよう助成するのが教育の目的であると力説した。それですべての教育は原則として必然的に受動的追従的な(唯だ保護的防禦的な)もので、命令的断定的干渉的であってはならぬと云い、子どもの自己活動による自由な多方面の学習を説いた。彼は人格の基礎が幼児期に造られ継続的に發展することに注目して幼稚園を創始した。彼は子どもを自由な交友環境においた点で、ルソーよりも効果的であり、さらに幼児の神性実現の方法として構成的創造的な遊戯と作業を掲げ、それに役立てる遊具に着眼したのも大きな功績である。

民主主義教育者デューイは真理は相対的なものであると云う立場をとり、法則は絶対的なものでなく単に事物変化の次第順序に外ならないと云う。彼は民主主義と教育の中に準備説・開發説および形式陶冶説を排斥し、教育そのものに目的はないが、教育自身は生活であり成長であるから結局成長發展そのものが教育の目的になると云い、教育は絶えざる環境への適応過程であり、積極的にユニークな個性を伸し社会的能率へ向って経験を改造するものであるが、それは成長發達の条件に従い環境を手段として間接的に行われるものと見る。彼が強調する参加は指導者にとっては誘導の範囲を越すべきものではなく、制御さえ最も効果的なものは教師が無意識裏に誘導する場合であると云う。自然を手段としユニークな個性とそれによる社会的能率を目的として、誘導に基づく自発活動を通して創造性と社会性を同時につちかうのは自然保育のねらいに外ならない。

保育所・幼稚園に対する家庭の理解と期待について

大阪基督教短期大学

高橋 恵子

(一) 目的

教育は家庭と園との緊密な理解と協力のもとに行われて始めてより正しく子どもの成長を期待することができる。それゆえ家庭が園の目的や内容などについていかに理解し期待しているかを調査することは意義あることと考えられる。

(二) 手続

対象は大阪都市農村の幼稚園保育所十八園児千八十名の家庭で農村は都心より車で二・三時間離れた郡村である。都市幼稚園は住宅地と繁華街。都市保育所は繁華街と工場裏街地区の園が含まれてい